

せたがや未来の平和館所蔵 語り部DVD

No.	タイトル	内容	時間
1	近衛野砲兵連隊（現昭和女子大学）の記憶	観測兵になった方の話。昭和20年に兵隊になった。理屈の通らない職場。	42分
2	戦時中の生活の様子	昭和19年8月の集団疎開の時に小学6年生。20年2月に世田谷区帰ってきてからの生活についても語る。	19分
3	代沢国民学校の疎開生活	学童疎開の詳しい生活。日時もはっきりと言う。結構生々しい話です。特攻隊員との詳しい交流。結婚したいと言われた。死ぬ覚悟をしている特攻隊員。手紙もあり。再疎開の経験あり。	41分
4	銀座空襲と麴町での戦災体験	B29の説明。集団疎開できなかった経験。東京の空襲の始めから終わりまで体験空襲の様子を分かりやすく話をする。泰明小学校に爆弾が落ち、先生方の死傷について。有楽町駅での爆弾。終戦までの東京の空襲についての話。	38分
5	目の当たりにした東京大空襲の惨禍と船橋での空襲体験	世田谷区船橋での話。高射砲を作るのを見ていた。3月10日の東京大空襲の後の深川で見た多くの死体について。5月25日山の手空襲での見た景色、照明弾が真昼のように明るい。(世田谷区船橋から)	33分
6	太平洋戦争で海に沈んだ民間船と海員たち	太平洋戦争時の民間船の被害について、関東軍と北日本汽船とのいきさつ。日本海汽船の成り立ち。A船、B船、C船の違い、日本の暗号がみんなアメリカに漏れていた。戦没者を記録する会と資料館の建設について、神戸の海員組合の2階に資料館を作ることとなった。	37分
7	サイパン脱出船団などミクロネシアの戦争	ミクロネシアと日本の関係。アメリカがサイパンを落とそうとしていることが分からなかった・トラック島は日本の重要な基地であった・竹島に航空機を集めたところへアメリカ軍に攻撃された、等。	49分
8	特攻隊員として出撃 海軍少尉 兄・廣嶋忠雄について語る	昭和20年8月9日に、福岡県出身の兄：廣嶋忠雄は、601部隊で特攻隊員として出撃し、金華山沖で戦死（19歳と10か月） 鹿児島海軍航空隊に入隊。 兄の思い出を語る。	23分
9	私が体験した長崎の原爆	当時10歳、小学校4年生で長崎の松山町が爆心地だった。原爆投下直後の長崎市を目の当たりにする。原爆は一瞬だが、被爆は一生続く。核兵器廃絶についての訴え。	44分
10	母が語った広島原爆	1歳半の時、広島原爆を体験する。当時の記憶は一切なく母から原爆の話聞く。広島原爆の様子分かる。核兵器廃絶運動を進めている。広島原爆を通しての訴え。	19分
11	私の戦争体験	昭和3年生まれ。小学2年生～6年生の時に駒沢練兵場で遊んでいた。兵隊ごっこ。昭和20年5月頃にこの辺りに焼夷弾がたくさん落ちた。東京でも空襲を経験している。池尻小のそばの馬糧倉庫や韓国会館、駒沢練兵所、駒場練兵所について。	50分
12	翼なき予科練習生	昭和4年5月4日生まれ。昭和19年11月予科練に入隊。最初、土浦海軍航空隊に配属され1週間ほどで岡崎航空隊に移る。主に飛行機の整備を行う。予科練習生の試験があった。軍人にあこがれていた。予科練の1日の話。（総員お越し・五箇条の御誓文を唱える。海軍体操、軍艦旗掲揚、兵舎の清掃、課業、温習、・・・）飛行機整備の話。	54分
13	ぼくの東京が燃えた	昭和8年カナダ・バンクーバー生まれ。4歳の時に日本にもどる。小学校時代に戦争を体験する。影絵作家として数々の作品を作成し、平成9年に自身の戦争体験を綴った「ぼくの東京が燃えた」を出版。	57分
14	私の戦争体験	昭和5年4月23日生まれ。昭和19年、熊本陸軍幼年学校に入学。熊本空襲で実家が焼かれ、15歳の時に終戦を迎える。終戦後は東京に出て出版社「暮らしの手帖」に入社。南京の虐殺事件については全然報道されなかった。熊本全体が軍隊の町だった。海軍はかっこいいが、陸軍はやばたい。	50分
15	中国残留孤児が語る この生あるは	昭和17年東京三田生まれ。翌年、1歳の時、家族と中国東北部（旧満州）に渡る。戦後は中国に1人残り養父母に育てられる。昭和33年、単身で舞鶴に帰還。日本中国友好協会本部事務局に勤務、中国語通訳として日中交流に尽力し、70歳を過ぎ自身の回想記「中国残留孤児がつづるーこの生あるは」を出版。	68分
16	消えた天気予報	大正12年京都府生まれ。太平洋戦争時、観測所に勤務。戦時中、気象情報は軍事機密のため公表が禁じられていた。海軍に入隊した。終戦後は、気象学者として「黒い雨」の調査を実施。	57分